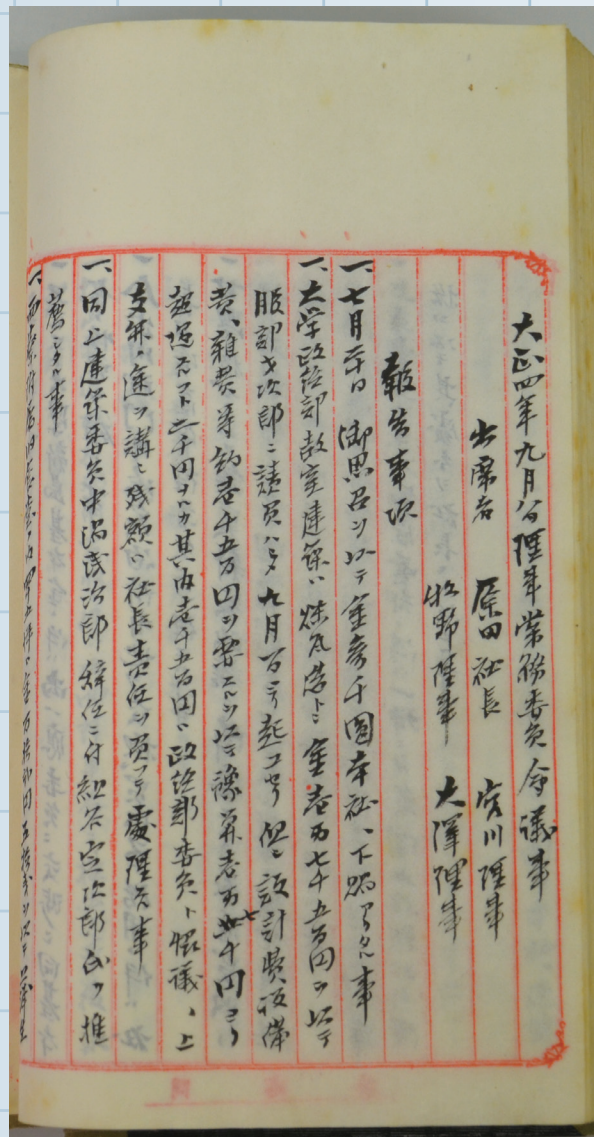


同志社大学

同志社社史資料センター報



第16号
2019年度

1. 巻頭言: 2019年度の報告にあたって
2. コラム: 致遠館の調査を通して明らかになったこと
3. 資料業務
4. 展示
5. 公開講演会・シンポジウム
6. 研究活動
7. 第177回新島襄生誕記念会
8. ハリス理化学館同志社ギャラリー
9. 新島旧邸
10. 委員会

同志社社史資料センター規程

2004年4月24日制定
2004年5月 1日施行

改正 2010年 2月18日
2012年 2月16日
2013年10月26日
2015年 3月20日

(設置)

第1条 本学同志社社史資料センター(以下「センター」という。)を置く。

(目的)

第2条 センターは、創立者新島襄並びに同志社関連資料の収集、整理、保存及び公開業務を継続、発展させ、同志社創立以来の歴史と伝統を後世に継承していくとともに同志社教育の充実と発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するために、以下の事業を行う。

- (1) 同志社社史資料の研究、収集、整理、保存及び公開に関すること。
- (2) 新島研究に関すること。
- (3) 同志社社史編纂に関すること。
- (4) 『同志社談叢』の発行に関すること。
- (5) ハリス理化学館同志社ギャラリーの管理運営に関すること。
- (6) 新島遺品庫の管理運営に関すること。
- (7) 新島襄旧邸の管理運営に関すること。
- (8) 新島襄及び同志社建学の精神についての啓蒙活動に関すること。
- (9) その他必要な事業

(所長)

第4条 センターに所長を置く。

- 2 所長は、学長が任命し、センターの業務を統括する。
- 3 所長の任期は1年とし、再任を妨げない。

(同志社社史資料センター委員会)

第5条 センターに同志社社史資料センター委員会(以下「センター委員会」という。)を置き、以下の事項について審議する。

- (1) センターの事業に関すること。
- (2) 社史資料調査員の候補者推薦に関すること。
- (3) その他必要な事項

(センター委員会の構成)

第6条 センター委員会は、次の者をもって構成し、委員は学長が委嘱する。

- (1) 所長
- (2) 教務部長、事務局長、人文科学研究所長、歴史資料館長、広報部長及び法人事務部長
- (3) 女子大学、中学校・高等学校、香里中学校・高等学校、女子中学校・高等学校、国際中学校・高等学校から各1名
- (4) 学識経験者若干名

2 第1項第3号に掲げる委員は、各学校長の推薦により学長が委嘱し、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

3 第1項第4号に掲げる委員は、所長の推薦により学長が委嘱し、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

4 センター委員会は、所長が招集し、議長となる。

5 センター委員会は、委員の過半数をもって成立し、議事は出席者の2分の1以上の賛成をもって決する。ただし、第5条第2号に係わる議決は出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(運営委員会)

第7条 センター委員会に同志社社史資料センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会は、第3条に掲げる事項についてセンター委員会の要請に基づき、必要な事項を検討する。

(運営委員会の構成)

第8条 運営委員会は、次の者で構成する。

- (1) 所長
 - (2) 第6条に掲げる者のうち所長が委嘱する者若干名
 - (3) 所長が必要と認めた者若干名
- 2 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 3 委員会は、所長が招集し、議長となる。

(事務室)

第9条 センターに事務室を置く。

- 2 事務室に職員若干名を置き、センターの事業、委員会に関わる事務、その他必要な事務を行う。
- 3 センターの事務組織は、同志社大学事務機構規程に定めるところによる。

(社史資料調査員)

第10条 事務室に社史資料調査員たる職員若干名を置く。

- 2 社史資料調査員は、社史資料の収集、整理、調査、企画、展示等の業務を行う。
- 3 社史資料調査員の選考に関する事項は、別に定める。

(事務の所管)

第11条 この規程に関する事務は、同志社社史資料センター事務室が行う。

(改廃)

第12条 この規程の改廃は、センター委員会及び部長会の審議を経て、学長が決定する。

附則)

この規程は、2015年4月1日から施行する。

2019年度の報告にあたって

同志社社史資料センター
所 長 小林 丈広

2019年度は、例年通り所蔵史料の整理を着実に進めるとともに、ハリス理化学館同志社ギャラリーでの企画展や講演会、紀要などを通じて成果の発信を行った。また、2025年の同志社創立150年に向けて『同志社150年史』編纂事業のあり方について検討を進めた。

ハリス理化学館同志社ギャラリーの企画展示室では、次のような展示を行った。まず同志社社史資料センター主催の展覧会として、4月9日から6月9日にかけて第18回企画展「新島家と安中藩—安中古文書学習協議会の翻刻成果の公開—」、7月2日から8月25日には第19回企画展「近代の夜明けとキリスト教—岸和田と同志社—」、10月1日から12月1日には第20回企画展「フレンドピースハウス—ハワイから同志社へ—」を開催した。今年度は同志社とゆかりの深い地域における市民活動や史料調査の成果が展示として実を結んだことが特徴であった。いずれも8千人を超す来場者を得ることができた。また、2020年3月20日からは歴史資料館主催で第21回企画展「古代計帳に載るムラー山背国愛宕郡出雲郷をめぐる考古学—」が開催された。これまで本センター報では歴史資料館主催の企画展の詳細については掲載してこなかったが、今年度からは展示活動の中で紹介することにしたのでご参照いただきたい。

また、常設展示室を中心に学内各クラブも日頃の活動の成果を披露した。2019年4月には美術部クラマ画会春の学内展「風光る」、10月には同じくクラマ画会後期展「秋を魅せる」、10月から11月にかけては書道部2回生展「凜」、12月には書道部書展「玄冬展」が開催された。さらに年度末からはクラマ画会春の学内展も開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、新年度のしかるべき時期に延期することになった。

今年度の特記事項としては、昨年度惜しまれながら解体されたフレンドピースハウスに関わる展示図録を発行することができたこと、さらに今年度建て替えのために解体された致遠館の記録保存に取り組むことができたことがあげられる。今後も学内に数多く残る文化財の保存について積極的に取り組んでいきたい。

さて、いよいよ同志社創立150周年まであと5年となった。2017年度末から始まった『同志社百五十年史』編纂準備委員会も、約2年間の協議を経てそのあり方をとりまとめ、2019年12月16日に学校法人同志社の総長宛に提出することができた。2020年度はいよいよその着手の年となるが、組織・人員・予算の問題だけでなく、資料を保存・活用するための施設や調査・編集を行うためのスペースなど多くの課題に取り組む必要があるものと考えられる。今後とも、同志社内外の方々のご協力をお願いしたい。

致遠館の調査を通して明らかになったこと

特定非営利活動法人 古材文化の会

日向 進

致遠館は、1912(明治45)年に開校した同志社大学の政治経済部と英文科の専用校舎として、1916(大正5)年に竣工した。戦後は事務棟としてその用途を変えながらも、正門のすぐ隣りにあって今出川キャンパスの景観形成に寄与してきたが、100余年にわたるその役割をおえて解体されることになった。報告書という形で記録に留めることになり、『同志社大学致遠館調査報告書』が作成された。以下、建築史を専門とする立場から、致遠館の調査を通して明らかになったことを報告する。

関心の第一は設計者の特定にあった。これまでの調査研究では、設計はW.M.ヴォーリズであろうとされている。ヴォーリズは同志社校歌(1908年制定)の作詞者でもあり、今出川構内の啓明館(旧図書館書庫1915年・本館1920年、国登録有形文化財)やアーモスト館(1932年、同前)を設計している。

致遠館が着工されるひと月前の1915(大正4)年7月30日の日付をもつヴォーリズによる設計図がのこっている。建物名は明示されていないが、玄関ポーチのペディメント(切妻壁)に同志社の徽章が認められること、米国コロニアル様式といわれる外観の意匠、致遠館の平面計画(間取り)が設計図とほぼ合致することなどから、設計図は木造、致遠館は煉瓦造という構造上の大きな違いはあるが、ヴォーリズによる木造案をもとに煉瓦造で建築されたのであろうと推測されてきた。竣工から間もない時期に撮影された旧図書館の写真(ヴォーリズ建築事務所蔵)の左に致遠館が写っており、"The building at the left is one of the college buildings done by us a few years ago."とあることも設計者をヴォーリズへと導く。しかしながら、致遠館の設計者を特定するにいたる直接的な根拠は見出されていなかった。

建物には、解体されない限りはあらわれないようなところに、工事関係者たちが名前や日付など建築の経緯に関わる痕跡を残していることがある。解体はやむを得ないこととして、致遠館においても設計者や施工者などの特定に結びつく発見、発掘が期待された。

就中、定礎箱が見つかったのは何よりの成果であった。南西角の定礎石のところから、厳封されたブリキ製の小箱(写真1)があらわれたのである。1915年11月3日の定礎式に埋納された箱で、ちょうど煉瓦2個分の大きさである。同じような定礎箱は、**静和館**(1912年8月29日竣工、1991年7月解体、武田五一設計)の基礎にも埋め込まれていた。

致遠館の定礎箱からは、同志社社長(総長・学長)原田助による式辞と献納品が大きな損傷を受けることなくあらわれた。設計者に結びつくものは入っていなかったが、1葉の平面図が納められていた(写真2)。室名や寸法などは記入されていないが、間取りはヴォーリズによる木造設計案がほぼ踏襲されていることが確認できた。

小屋裏からは棟札が見つかった(写真3)。上棟式は1915年12月28日で、棟梁のほか石工、煉瓦積みなど職方の名前が記されている。**静和館**の基礎工事を請け負った業者の身内とみられる人物や白川の石工が関わっていることを確認することができたが、棟札にも設計者は記されていなかった。(ちなみに、棟

私は東西、南北両方向の中心、つまり建物の真ん中に立つ棟束に東向きに打ち付けられていた。細かいことだが、棟は東西に通っているため、正面の南ではなく棟通りで太陽が昇る東に向けて打たれたのではないだろうか。）

ここでよく分からないことがある。1ヶ月という限られた期間に木造から煉瓦造に変更して着工することは容易ではない。大量の煉瓦を調達するにも相当な期間を要したはずである。先述したように、木造による原案をもとに煉瓦造で実施したと考えていた。しかしそうではなく、もともと煉瓦造による設計を進めていたところに何らかの事情が出来し、木造案が作成された。結局、振り出しに戻ってももとの設計案であった煉瓦造で実施されることになった、という経緯があったのではないだろうか。（ただし、煉瓦造による設計案の有無等については不詳である。）

その主材料である煉瓦についてはどうか。煉瓦には生産者を示す刻印が打たれることがある。解体が始まり、山と積み上げられた煉瓦のなかから、刻印があるものや文字が書かれた煉瓦が拾い出された。アルファベット大文字「O」「Y」に「ヲ」を組み合わせた刻印は、1888(明治21)年から煉瓦製造を専業とした「大阪窯業」の社印である(写真4)。同社の煉瓦は構内のクラーク記念館(1894年、重要文化財)でも使われている。他にも、施工時の符丁とみられる漢数字や平仮名などが刻まれた煉瓦も見つかった。刻印や刻字がある煉瓦のいくつかは、煉瓦の専門博物館である「舞鶴市立赤れんが博物館」に寄贈された。

致遠館の空間構成、意匠がヴォーリズの原設計案に由来することは確かなこととしてよいであろう。残念ながら実施設計者の特定に結びつく物証を得ることはできず、不詳とせざるを得ない。



写真1

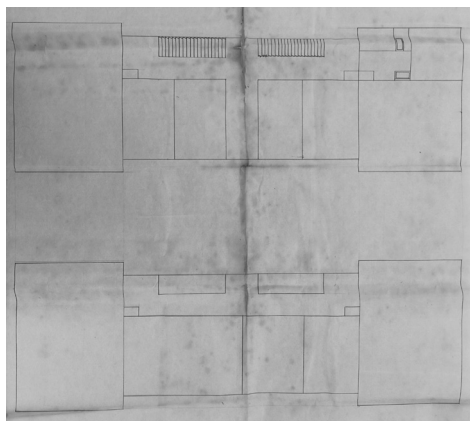


写真2



写真3



写真4

資料業務

1. 資料整理

1. 資料業務

・収蔵資料

遺品庫	6,602点
資料室	14,087点
整理済み資料	31,840点

・蔵書冊数

図書	12,987冊
逐次刊行物	1,214タイトル

2. 参考業務

・レファレンス数	702件
文献調査	211件
事項調査	456件
その他	35件

2. 資料提供(写真資料を中心に)

日本キリスト教団出版局

千代田岳精会

金城学院大学キリスト教センター

NPO法人大磯ガイド協会

福島テレビ報道部

くまもと県民交流館/パレア 男女共同参画センター

町田市立自由民権資料館

トヨタカロラー新大阪株式会社

京都市立藤森中学校

株式会社 悠工房

株式会社 童夢

株式会社朝日新聞出版 アエラムック編集部

株式会社 シナップス

福島民友新聞社

TBSテレビ

松森純子事務所

テレビ朝日

株式会社 淡交社編集部

株式会社 タビックスジャパン 会津支店

有限会社 三猿舎

福島県会津若松市 総務部総務課

博物館実習の受け入れ

【同志社大学「学外実習」受け入れについて】

本年度は8名の学生を受け入れ、2期（第1期：8月6日～8日、第2期：8月20日～22日）に分け、一日3時間、合計9時間の実習を行った。第1期は写真資料の調書作成を行い、第2期は実習日ごとに、展示活動、資料の保存・管理、資料の収集・整理とテーマを設け、各テーマに従って、大学アーカイブズと展示活動に関する講義、新島遺品庫の見学、美術梱包作業などを実施した。



【同志社女子大学「博物館実習」受け入れについて】

本年度は3名の学生を受け入れ、8月26日～30日までの5日間、毎日6時間の実習を実施した。実習内容は、①大学アーカイブズの役割と所蔵資料に関する説明及び実習②収蔵庫の見学と所蔵資料の取り扱い方の説明③絵はがき等資料整理の説明及び実作業④企画展に関する業務を中心とした資料公開業務の説明及び実作業⑤美術梱包の説明及び実作業である。特に④に関して実習時間を割き、実習生3名にそれぞれ紹介したい資料1点を選ばせ、その理由や資料に関する説明、資料を通じて見に来る人々に何を伝えたいかを含めて企画案を作成させ、最終日にプレゼンテーションを実施した。



展 示

1. 展示活動

ハリス理化学館同志社ギャラリー企画展示室

第18回企画展

テーマ：新島家と安中藩
—安中古文書学習協議会の翻刻成果の公開—
期 間：2019年4月9日(火)～2019年6月9日(日)
主 催：安中古文書学習協議会・同志社社史資料センター
来場者数：8,392人
実施日数：48日



第19回企画展

テーマ：近代の夜明けとキリスト教—岸和田と同志社
期 間：2019年7月2日(火)～2019年8月25日(日)
主 催：岸和田市教育委員会・同志社社史資料センター
協 力：山岡家、日本基督教団岸和田教会
来場者数：8,776人
実施日数：42日



展示説明会

日 時：2019年7月13日(土) 15:00～ 参加者30人

第20回企画展

テーマ：フレンドピースハウス—ハワイから同志社へ—
期 間：2019年10月1日(火)～2019年12月1日(日)
主 催：同志社社史資料センター
来場者数：8,998人
実施日数：50日



展示説明会

日 時：2019年11月9日(土) 15:00～ 参加者30人

第21回企画展

テーマ：古代計帳に載るムラ
—山背国愛宕郡出雲郷をめぐる考古学—
期 間：2020年3月20日(金・祝)～2020年4月26日(日)
主 催：同志社大学歴史資料館
来場者数：694人(2020年3月31日現在)
実施日数：10日(2020年3月31日現在)



常設展示室「同志社の今」特別陳列

第27回

テーマ：同志社大学美術部クラマ画会 春の学内展「風光る」

期 間：2019年4月2日(火)～2019年4月21日(日)

主 催：同志社大学美術部クラマ画会

来場者数：1,811人

実施日数：17日



第28回

テーマ：同志社大学美術部クラマ画会 後期展「秋を魅せる」

期 間：2019年10月8日(火)～2019年10月20日(日)

主 催：同志社大学美術部クラマ画会

来場者数：731人

実施日数：11日



第29回

テーマ：同志社大学書道部 二回生展「凜」

期 間：2019年10月23日(水)～2019年11月2日(土)

主 催：同志社大学書道部

来場者数：861人

実施日数：10日



第30回

テーマ：同志社大学書道部 書展「玄冬展」

期 間：2019年12月10日(火)～2019年12月21日(土)

主 催：同志社大学書道部

来場者数：1,008人、2階「企画展示室」1,242人

実施日数：10日



2. 展示協力

新島会館への展示協力

「新島八重の生涯」をテーマに、新島八重関係資料(レプリカ)と写真パネルを貸出

同志社京田辺会堂光館ラウンジ展への展示協力

上記で実施された第9期展「同志社大学のキリスト教—同志社に蒔かれた種—」(会期：2019年3月～9月)、第10期展「新島襄と同志社—建学の精神・新島の夢—」(会期：2019年9月～2020年3月)において企画立案準備設営に関して協力

「明治日本とキリスト教—蒔かれた種—」への展示協力

西南学院大学博物館が主催する上記企画展(会期：2019年7月15日～10月26日)へ新島襄及び波多野培根関係資料画像5点を提供

「明治の会津藩～新時代を生きた会津人～」へ展示協力

若松城天守閣郷土博物館が主催する上記企画展(会期：2019年9月14日～11月4日)へ新島八重関係資料4点を貸出

一般財団法人神戸観光局萌黄の館への展示協力

A. N. ハンセルが関わった建築物の紹介に使用するハリス理化学館内の木製階段手すりの画像1点を提供(2019年9月より)

「進取の精神の実践者—同志社から来た教員たち」への展示協力

早稲田大学大学史資料センターが主催する上記企画展(会期：2019年9月27日～11月3日)へ新島襄肖像画画像1点を提供

「同志社女子教育と体育・スポーツ」への展示協力

同志社女子大学史料センターが主催する上記企画展(会期：2019年11月22日～2020年7月31日)へ同志社関連資料画像11点を提供

同志社同窓会への展示協力

同志社創立144周年記念リユニオン(開催日：2019年11月10日)での同志社同窓会ブースに展示する同志社女子部関連資料画像2点を提供

「近代の夜明けとキリスト教—岸和田と同志社」への展示協力

延期して実施された岸和田市教育委員会との上記共催展(岸和田会場、会期：2019年11月28日～2020年4月19日、ただし緊急事態宣言に伴う新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月7日で終了)で設営協力及び資料10点を貸出

地域協力

- 2019年9月19日(木)第11代同志社総長牧野虎次の出身地である滋賀県日野町教育委員会の依頼により、同委員会が主催する本学今出川キャンパスでのキャンパスツアー時に、同志社ギャラリー常設展示室「同志社のあゆみ」に牧野虎次関係資料2点を展示
- 2019年10月11日(金)～10月14日(月)源氏藤袴会主催の2019年香りが誘う京都の文化と歴史「藤袴祭」でスタンプラリーに協力



公開講演会・シンポジウム

ハリス理化学館同志社ギャラリー企画展示

「近代の夜明けとキリスト教—同志社と岸和田」公開講演会

演 題：「岸和田の近代化とキリスト教」

講 師：大塚 祥子氏(岸和田市教育委員会生涯学習部郷土文化課)

日 時：2019年7月13日(土) 13:00~14:30

場 所：至誠館S2番教室(同志社大学今出川キャンパス)

参加者：60名



ハリス理化学館同志社ギャラリー企画展示

「フレンドピースハウス—ハワイから同志社へ—」公開講演会

演 題：「同志社の建築群におけるフレンドピースハウス」

講 師：石川 祐一氏(京都市文化財保護課[主任・文化財保護技師])

日 時：2019年11月9日(土) 13:00~14:30

場 所：良心館105番教室(同志社大学今出川キャンパス)

参加者：40名



研究活動

機関誌の刊行や第1部門研究(新島研究)の研究会や機関紙の刊行は次の通りである。

1. 第1部門研究(新島研究)研究会(代表 横井 和彦)

第182回例会	2019年4月8日(月) 『新島研究』110号論評会 「『聯邦志略』を読む」 報告者：坂本 恵子 論評者：吉海 直人 「新島襄は強い人であった」 報告者：井上 勝也 論評者：北垣 宗治 「新島襄の英学事始め」 報告者：三好 彰 論評者：大鉢 忠
第183回例会	2019年5月13日(月) 「オーテス・ケーリと捕虜と寮生」 報告者：森永 長壹郎
第184回例会	2019年6月10日(月) 「新島襄留学時アメリカの時代思潮」 報告者：伊藤 彌彦
第185回例会	2019年7月8日(月) 「同志社標本館・加藤コレクション」 報告者：金 泰成
第186回例会	2019年8月3日(土) 企画テーマ「新島襄の教育理念—『良心』を手がかりに—」 司会：井上 勝也 開会に寄せて「私が目指した良心教育」 報告者：大谷 實 企画報告1「日本国の文明化と新島襄の良心」 報告者：伊藤 彌彦 企画報告2「良心学という言葉は存在しない」 報告者：北垣 宗治 企画報告3「良心碑の来歴」 報告者：沖田 行司 質疑応答 個別報告1「新島襄の政法思想」 報告者：大越 哲仁 個別報告2「新島襄の教え子たち」 報告者：本井 康博
第8回同志社 を語る会	2019年9月9日(月) 「新島襄の足跡を辿る—吉野の山林王・土倉庄三郎と神田・伊香保・前橋・大磯—」 報告者：田島 繁

第187回例会	2019年10月21日(月) 「大西祝の『問い』—1890年代の時評を手掛かりに—」 報告者：望月 詩史
第188回例会	2019年11月11日(月) 「新島研究の問題点」 報告者：北垣 宗治
第189回例会	2019年12月9日(月) 「『上毛教界月報』にみる柏木義円の新島観・同志社観」 報告者：坂井 誠
第190回例会	2020年1月20日(月) 「湯浅初について—学歴・信仰歴などを巡って」 報告者：山下 智子

第1部門研究(新島研究)運営委員会(2019年度)

横井 和彦(代表)、生田 香緒里、井上 勝也、北垣 宗治、小崎 眞、森 一郎、森永 長壹郎、本井 康博、大鉢 忠、大島 中正、竹山 幸男、富田 正樹、山本 真司

2. 第1部門機関誌

『新島研究』第111号 A5判 176頁 2020年2月12日発行

論 叢	シンポジウム「新島襄の教育理念—『良心』を手がかりに—」	
	私が目指した良心教育	大谷 實
	日本国の文明化と新島襄の良心	伊藤 彌彦
	「良心学」という言葉は存在しない	北垣 宗治
	良心碑の来歴	沖田 行司
	シンポジウム総合討論	
	新島襄の蘭学	三好 彰
	『聯邦志略』と『海國圖志』、新島襄が読んだのはどちらか	大越 哲仁
	セイヴォリー船長と箱館の商人ウィルキー	八木谷涼子
	オーテス・ケーリー捕虜と寮生と—	森永長壹郎
資料紹介	『新島襄英文来簡集』解題	本井 康博
エッセイ	新島襄の足跡を辿る 関西・関東編	田島 繁

『新島研究』編集委員会(2019年度)

横井 和彦(委員長)、生田 香緒里、井上 勝也、北垣 宗治、小崎 眞、森 一郎、森永 長壹郎、本井 康博、大鉢 忠、大島 中正、竹山 幸男、富田 正樹、山本 真司

3. 機関誌

『同志社談叢』第40号 A5判 180頁 2020年3月1日発行

論 叢	女性宣教師とキリスト教保育 —A・L・ハウからラーネッド園長に受け継がれたフレーベル主義幼児教育—	坂本 清音
	明治五年「学制」と「プロイセン一般ラント法」の諸問題—同志社英学校を中心に—	竹内 力雄
	同志社ビジネススクール前史(II)	阿部 泰士
研究ノート	私学と兵役の関係に関する一考察—同志社を事例として—	小枝 弘和
資料紹介	女性宣教師園長を中心とした出町・今出川幼稚園史 —デントン・ラーネッド・ファニング・バートレット園長時代—	坂本 清音
	和田守教授収集の徳富蘇峰関係資料寄贈のこと	伊藤 彌彦
目 録	新島襄関連の文献目録(38) 購入資料・受贈資料目録	

『同志社談叢』編集委員会(2019年度)

小林 丈広(委員長)、伊藤 彌彦、物部 ひろみ、大島 中正、横井 和彦、山下 麻衣

4. 刊行物

『同志社大学 同志社社史資料センター報』第15号(2018年度)

(2019年4月発行)

『2019年度 新島襄生誕記念懸賞論文 入選作品集2020』

(2020年3月発行)

『新島襄生誕記念懸賞論文 入選作品集』編集委員会(2019年度)

竹山 幸男(委員長)、井上 勝也、森 一郎、横井 和彦

『同志社大学致遠館調査報告書』認定NPO法人 古材文化の会・編

(2020年3月発行)

第177回 新島襄生誕記念会

日時：2020年2月12日(水) 17：30～19：15

場所：同志社礼拝堂

表彰

第27回新島研究功績賞

大谷 實(同志社大学名誉教授)

沖田 行司(同志社大学名誉教授)

新島襄生誕記念懸賞論文(2019年度)

【中学校の部】

最優秀賞

岸本 莉采(同志社女子中学校1年)

「一枚の臨終図から(永眠、遺言)」

優秀賞

藤原 充希(同志社香里中学校1年)

「新島スピリットの考察」

佳作

藤平 汐穂(同志社中学校1年)

「新島襄先生の不屈の精神から学ぶこと」

亀井 玲亜(同志社女子中学校1年)

「新島襄と大隈重信—キリスト教が紡ぐ2人の縁—」

徳田 梨紗(同志社女子中学校1年)

「京都での同志社設立」

【高等学校の部】

最優秀賞

鵜崎 陶子(新島学園高等学校2年)

「新島襄と岩倉使節団」

優秀賞

久保田 かれん(同志社女子高等学校3年)

「新島襄と山本覚馬の遺志を受け継いだ中村栄助」

高山 初穂(同志社女子高等学校3年)

「中村栄助—新島襄と同志社に尽した男—」

佳作

茶屋 美幸(同志社女子高等学校3年)

「東華学校～消え去った「もうひとつの同志社」～」

田中 楓乃(同志社女子高等学校3年)

「周再賜が目指した社会」

小林 航太郎(新島学園高等学校3年)

「新島襄の変化～七五三太からJosephまで～」

【大学・短期大学・大学院の部】

佳作

樋口 美鈴(新島学園短期大学1年)

「スタークウェザーは同志社女学校の女子教育にどんな影響を及ぼしたか」

ハリス理化学館同志社ギャラリー

本ギャラリーはハリス理化学館（1890年竣工、1979年重要文化財指定）を2013年にリニューアルした展示施設である。同志社の歴史と創立者新島襄の今に息づく精神を2つの企画展示室と6つテーマに分けた常設展示室に所蔵資料を展示して紹介している。



開館時間 10:00～17:00（入館受付は16:30まで）
 閉館日 日曜日（企画展開催中は開館）、月曜日、祝日、
 ゴールデンウィーク・夏期休暇・冬期休暇の一定期間
 実施日数 266日（企画展示室は160日）

2019年度入館者数（2019年4月1日～2020年3月31日）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
総入館者	4,258人	3,336人	4,071人	4,383人	5,009人	3,859人
同志社のあゆみ	2,398人	1,770人	2,029人	1,941人	2,518人	1,622人
企画展示室	3,448人	3,655人	1,289人	4,261人	4,515人	—
京都の中の同志社	2,499人	2,073人	2,887人	2,454人	3,299人	3,242人
同志社の今	2,558人	2,171人	2,185人	1,766人	2,624人	1,474人

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5,276人	6,972人	3,780人	2,187人	2,184人	2,703人	48,018人
2,152人	3,199人	1,574人	972人	1,187人	1,389人	22,751人
4,039人	4,808人	1,393人	—	—	694人	28,102人
2,371人	3,383人	1,944人	1,270人	1,243人	1,474人	28,139人
1,677人	3,568人	2,011人	965人	1,138人	1,245人	23,382人

新島旧邸

1875（明治8）年11月29日、同志社英学校がこの地に開校したことを記念し、建学の精神を体感する場として公開している。新島襄の私邸で、ボストンの友人J.M.シアーズの寄付によって1878（明治11）年に建てられた。1985（昭和60）年、調度・家具類を含めて京都市から有形文化財に指定された。建物の保護のため、公開と保存を両立する形に公開方法を見直し、通常公開は、旧邸の周囲から建物内部を見学に留め（建物内への入場は不可）、特別公開のみ、母屋1階と附属屋への入場を可としている。

開館時間 10:00～16:00
 通常公開 4月～7月、9月～11月、3月の毎週火・木・土（祝日を除く）
 特別公開 4月1日～5日、オープンキャンパス、10月1日～5日、ホームカミングデー、
 同志社創立記念日、3月20日～3月22日

2019年度見学者数

4月	5月	6月	7月
1,102人	577人	439人	452人
9月	10月	11月	3月
496人	728人	1,521人	637人
合計	期間外		
6,133人	181人		



委員会

同志社社史資料センター委員会委員 (2019年度)

小林 丈広	同志社社史資料センター所長(委員長)	山田 邦和	女子大学現代社会学部教授
大島佳代子	教務部長	後藤貴三恵	中学校・高等学校教諭
濱 吉輝	事務局長	藤井 宏樹	香里中学校・高等学校教頭
小山 隆	人文科学研究所長	平松 譲二	女子中学校・高等学校教頭
新 茂之	歴史資料館長	西田喜久夫	国際中学校・高等学校教頭
岩田 喬	広報部長	横井 和彦	経済学部教授
柳井 望	法人事務部長		

同志社社史資料センター運営委員会委員 (2019年度)

小林 丈広	同志社社史資料センター所長(委員長)	新 茂之	歴史資料館長
大島佳代子	教務部長	柳井 望	法人事務部長
濱 吉輝	事務局長	山田 邦和	女子大学現代社会学部教授
小山 隆	人文科学研究所長	横井 和彦	経済学部教授

ハリス理化学館同志社ギャラリー運営委員会 (2019年度)

植木 朝子	副学長(委員長)	谷本 高彦	総務部長
小林 丈広	同志社社史資料センター所長(副委員長)	柳井 望	法人事務部長
新 茂之	歴史資料館長	横井 和彦	キリスト教文化センター所長
佐伯 順子	社会学部長	越前 俊也	文学部教授
塚越 一彦	理工学部長		

ハリス理化学館同志社ギャラリー運営委員会部会 (2019年度)

小林 丈広	同志社社史資料センター所長(部会長)	中安 真理	文化情報学部助教
若林 邦彦	歴史資料館教授	小枝 弘和	社史資料調査員
浜中 邦弘	歴史資料館准教授	布施 智子	社史資料調査員(2019年9月まで)
木谷 佳楠	神学部助教	矢部 景子	社史資料調査員
井上 一稔	文学部教授	松居 宏枝	社史資料調査員(2019年12月より)

徳富基金運営委員会 (2019年度)

八田 英二	同志社総長・理事長(委員長)	布留川正博	経済学部教授
徳富 次郎	社友	柳井 望	法人事務部長(幹事)
小林 丈広	文学部教授(同志社社史資料センター所長)		

『同志社百五十年史』編纂準備委員会 (2019年度)

小林 丈広	同志社社史資料センター所長(委員長)	大島 中正	女子大学表象文化学部教授
横井 和彦	キリスト教文化センター所長	桜井 希	中学校・高等学校教諭
山田 史郎	文学部教授	生田香緒里	女子中学校・高等学校教諭
越水 雄二	社会学部准教授	柳井 望	法人事務部長
山田 邦和	同志社女子大学史料センター長		

同志社社史資料センター

所長	小林 丈広
事務室	
事務長	上田 裕保
係長	笹波 和裕
社史資料調査員	小枝 弘和
社史資料調査員	布施 智子 (2019年9月まで)
社史資料調査員	矢部 景子

事務室

社史資料調査員	松居 宏枝 (2019年12月より)
契約職員	森 智奈美
アルバイト	3名
研究補助員	1名

資料整理

学生アルバイト	交代勤務
大学院生	9名登録
学部生	33名登録

同志社社史資料センター利用要項

2009年5月19日制定
2010年5月20日改正
2012年2月20日改正

(目的)

第1条 この要項は「同志社社史資料センター規程」の第3条第1号に基づき、同志社社史資料センター（以下「センター」という）が所蔵する資料等（以下「資料等」という）の利用に関する必要事項を定める。

(利用に関する業務)

第2条 センターは、資料等の利用に関して次の業務を行う。

- (1) 閲覧
- (2) 複写
- (3) 貸出
- (4) 参考調査

(公開と利用制限)

第3条 資料等は公開を原則とするが、次のものは利用を制限する。

- (1) 新島遺品庫資料
- (2) 新島旧邸文庫資料
- (3) 非公開を条件に寄贈・寄託を受けている資料
- (4) 破損または汚損を生じる恐れがある資料
- (5) 個人情報に関する資料
 - ア) 現存者の個人情報に関する資料については、「個人情報の保護に関する規程」(法人)と「同志社大学個人情報保護委員会内規」に基づく。
 - イ) 物故者の個人情報に関する資料については、以下のものの利用を制限する。
 - ① 没後50年未満のもの
 - ② 故人の重大な秘密であり、公開により遺族等に不利益を与える恐れがあるもの
- (6) センター所長（以下「所長」という）が特に指定する資料等。

(利用時間)

第4条 資料等を利用できる時間は、大学が定める休日を除いた平日の9時から17時とする。

2 所長が必要と認めるときは、利用時間を変更することがある。

(閲覧)

第5条 資料等の閲覧は、センター内所定の場所で行うものとする。

(複写)

第6条 資料等の複写・撮影は、著作権法の範囲内で行うものとする。

- 2 破損の恐れがある資料等は、複写・撮影を制限する。
- 3 出版、放映、展示等のために複写・撮影する場合は、所定の申請書を提出し、所長の承認を得なければならない。

(貸出)

第7条 貸出ができる資料等は、同志社大学学術情報システム (DOORS) に登録された図書とする。ただし、禁帯出図書及び逐次刊行物を除く。

2 貸出ができる者は、以下とする。

- ア) 同志社大学学生・教職員
- イ) 同志社女子大学学生・教職員
- ウ) 同志社大学と同志社女子大学の図書館利用カード所持者
- エ) センターが設置する部門研究の参加者
- オ) その他、所長が特に認めたもの

3 貸出冊数および貸出期間は、本学図書館の貸出要領に準ずる。

4 返却を延滞した場合は、当該資料を返却するまで貸出を停止する。

(特別貸出)

第8条 出版、放映、展示等のため資料等を貸出する場合、利用者は所定の申請書を提出し、所長の許可を得なければならない。

(紛失、汚損)

第9条 資料等を紛失・汚損したとき、所長は現物または現金による弁償を求めることができる。

(参考調査)

第10条 センターは、利用者の求めにより次の範囲で参考調査を行い、情報を提供する。

- 1 同志社関係資料の検索
- 2 同志社史に関する事実

(要項の改廃)

第11条 この要項の改廃は、同志社社史資料センター委員会において決定する。

附則)

この要項は2012年4月1日より施行する。

同志社大学
同志社社史資料センター報 第16号

発行日 2020年4月30日
編集・発行 同志社大学 同志社社史資料センター
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
Tel. 075-251-3042 Fax. 075-251-3055
<https://archives.doshisha.ac.jp/>

表紙写真：大正四年九月八日理事常務委員会議事

致遠館は、木造建築物として計画されていたが、建設開始の直前で煉瓦造建築物に変更された。これを証明する資料。なお、該当箇所の読下しは以下の通り。

- 一、大学政治部教室建築ハ煉瓦造トシ金壹万七千五百円ヲ以テ服部才次郎ニ請負ハラシメ九月一日ヨリ起工セリ但シ設計費設備費、雑費等約壹千五百円ヲ要スルヲ以テ予算壹万七千円ヨリ超過スルコト二千円ナルカ其内壹千五百円ハ政経部委員ト協議ノ上支弁ノ途ヲ講シ残額ハ社長責任ヲ負フテ処理スル事